

学年	高校 3 年	教科	地歴	科目	地理演習	単位数	7
教科書名		新詳地理（帝国書院）		副教材名	新高等学校地図（東京書籍） 新詳地理資料 COMPLETE （帝国書院） 地理用語集（山川出版）		
コース・クラス		N 進文系					

I. 目標

1. 日本大学基礎学力到達度テスト、大学入学共通テスト、他大学の入試問題に対応できる解答力を強化する。
2. 二年次に学習した地理探究における知識を前提として様々な地理的事象や問題を考察し、得点力を確実にする。
3. 系統地理と地誌の多角的な融合をすることで、各事象の地理的視点をより強化する。
4. 演習の時間を有効かつ効果的に使い、模試や入試で出題される問題に柔軟に対応できる応用力を強化する。
5. 基礎学力到達度テストでの得点力と大学入学共通テストや難関大学の入試問題に対応できる実力を身につける。

II. 授業のねらい

1. 探究学習の応用と地理的事象の考察及びその背景（文化・歴史等）も含めて解決力を涵養する。
2. 地理的視点から政治、経済、国際関係、文化生活、地球科学等の幅広い素養を身につける。
3. 無駄な暗記は極力排除し、地理的視点からの理論的考察や思考力を養う。

III. 授業の進め方

1. 過去問（入試・模試等）を授業の理解度に応じて提示し、基礎学力到達度テストにおいて必要な事項を確認する。
2. 地図から得られる情報を大切にし、地図を読めるように毎時積極的に使用する。
3. 資料集を優先し、複数の情報から設問の意図を汲み、確実に解答できるように解説を行う。
4. 基礎学力到達度テストを前提に大学共通テスト、難関大学入試問題に早く・確実に解答できるよう解説する。
5. 基礎学力到達度テストの出題傾向を理解しその対策を目的に行う。
6. 進度は地理探究に準ずるが、それを踏まえた大所高所からの実践演習を行う。

IV. 学習上の留意点

1. 復習のみを課し、学習した内容（解いた問題）はその日のうちに確認及び定着すること。
2. オリジナルプリントを使用するが、教科書・地図帳・用語集の教材準備は確実にすること。
3. 地理を選択した意志を尊重し、より高度な内容にも積極的に興味を持って取り組むこと。
4. 課題は原則当日解決。わからないものはその日のうちに質問・解決に努力すること。

V. 定期試験

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| 1学期 中間試験 | : 授業範囲を前提に基礎学力到達度テストと同程度以上の出題 |
| 1学期 期末試験 | : 授業範囲を前提に基礎学力到達度テストに向けて最終調整の出題 |
| 2学期 中間試験 | : 実施せず |
| 2学期 学年末試験 | : これまで学習した地理に関する総合問題と共通試験レベルの出題 |

VI. 評価の方法

各定期試験の得点、学期毎の小テスト、各種課題の提出状況や出席した授業参加の状況等を総合的に判断して評価する。

VII.授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	第1章 自然環境 1節 地形 2節 気候	小テスト	・自然地理は復習・確認を行う。 ・入試問題を使用し、早く・確実性を優先する。 ・大地形・小地形の特徴を確認する。 ・基礎学で出題される内容と共通テストの比較。 ・ケッペンの気候区分とハイサーグラフの確認。 ・我が国の地形や気候特性を確認する。 ・アジア、アフリカの地誌を演習中心に扱う。
	5	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題	中間試験	・農林水産業の確認 ・栽培分布と生産・輸出・輸入の確認。 ・入試問題からの分析と傾向対策。
		3節 エネルギー・鉱産資源		・入試における鉱工業の確認。 ・鉱工業の貿易を確認。
	6	4節 資源・エネルギー問題 5節 工業（製造）	小テスト	・一次産品の貿易を統計数値と地図を使い確認。 ・南北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアの地誌を入試問題を用いて扱う。
	7	6節 第3次産業	期末試験	
一学期	9	基礎学力到達度テスト対策	小テスト	・基礎学力到達度テストの過去問を計時解答及び解答解説に充当する。
		現代における地理の諸問題		・基礎学終了後は世界の地理的事象を確認する。 ・戦争、テロリズム発生のメカニズムを歴史的な背景から考察する。
	10	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像		
	11	第1節 将来の国土の在り方		・「我が国の強みとは」を題材に、我が国の地理的な課題と文化的な背景を考察する。
	12	第2節 持続可能な日本の国土像の研究	期末試験	・世界の主流である異文化共生論の観点から「世界の中の日本」のあり方を考察する。 ・我が国の課題を見つけ、その解決を考える。

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の状況により変更することもある。

※ 日本大学基礎学力到達度テスト受験を前提に系統地理の基本事項確認と地誌・演習を優先する。

※ 高3の3学期の授業設定は無いが、随時一般受験の指導体制は維持する。